

【京都医療技術短期大学 学生より】

研修旅行 日本放射線技術学会第 64 回総会学術大会に参加して

京都医療技術短期大学 学生 沢井五樹

去る 4 月 5 日と 6 日、横浜への研修旅行において私達医療技術短期大学 3 年生は、横浜みなとみらいのパシフィコ横浜で開催された日本放射線技術学会第 64 回総会学術大会に参加させていただきました。

もちろん学会に参加するということが初めての経験であり、プログラムを片手に何処へ行けばいいのか迷うほど大きな会場のなかで、学生で参加している私は場違いな気さえました。講演の内容もやはり最先端の非常に高度で、基本的なことを学習している途中の自分にとってはなかなか理解が追いつかない部分もありました。しかし、日常学んでいる内容と、現場で注目されている最新の内容とのつながりを実感することができ、大変貴重な体験となりました。

2 日間色々な発表を見学させて頂きましたが、本学で教鞭を取られている大野和子先生も参加されていた「モーニングセミナー：医療放射線防護の常識、非常識 私たちが伝えたかったこと」という発表が特に印象に残りました。「行為の正当化」と「被ばくの最適化」の精神の重要性を診療放射線技師が伝えていくことにより、一般に浸透している放射線に対する不安をどのように払拭していくかという内容であり、今学んでいる知識が現場でとても重要であるかを実感でき、学生である私にとっても非常に有意義なものでした。

本学に入学して以来、放射線物理学に放射線生物学、解剖学や病理学などの基礎医学、放射線安全管理学に撮影技術学に機器工学、画像工学さらにデジタルの知識など多岐にわたる知識について学習してきましたが、今回の学会に参加したことで、学んでいる知識全てが技師として非常に重要なものであることを再認識できました。これからも勉学に励みます。学会に参加させていただきありがとうございました。

JRC2008 に参加して

京都医療技術短期大学 学生 高橋修平

今回参加した JRC は私にとって初めての参加となった。あらかじめ学校の先生方から規模の大きな学会だと同っていたが、スケールの大きさ、参加人数の多さは予想をはるかに超えていた。

私が初日の最初に足を運んだのは機器展示ブースであった。機器展示ブースでは、島津製作所をはじめとして見覚えのある会社名が彼方此方、多数参加していた。各ブースの前を通るたびに声をかけられ、なかには学生である私に対しても大変丁寧に説明して下さった。どの会社も自社製品の特徴を懸命にアピールしておられ、それを聞く方々も製品に対しての詳細を尋ねておられた。各施設の現場に配置される機器はこのようにして導入が決定されるのかと、現場を少し分かっ

た気がした。

学会では事前に手に入れた予稿集に目を通しておき、どの発表を聞きに行くか決めていたので、機器展示見学を終えると予定していた発表会場へ赴いた。当初の私の考えでは 2 日間で CT・MRI・治療・核医学の分野の発表を全て回るつもりであった。しかし実際に核医学や MRI 部門などの発表を聞いてみて、発表内容を理解するよりも、「FLAIR とは・・・、SPECT とは・・・」など、発表で出てくる言葉の意味を思い出すことに必死となり、発表全体の流れをつかめないまま終わってしまうこととなってしまった。これでは折角学会に参加した意味がなくなってしまうと思い、初日終了後ホテルに戻り 2 日目予定していた内容を考え直した。

2 日目は専門分野の発表よりも「資格に挑戦」、「論文の書き方」など専門分野外の発表を中心に聞くことにした。耳に入りやすく楽しく聞くことができた。決して学校では学ぶことのできない内容であったので学校の講義とは違う視点で勉強になった。

あっという間に 2 日間のプログラムが終わってしまい、もっと多くの発表を聞きたかった。私もいずれは放射線関係で働く者のひとりとして、今回発表されていた先輩達のように発表を行い、自分の勉強の成果を同じ仲間に伝えたい。その前に放射線技師の国家試験に合格しなければならないのだが・・・。

以上

* 通巻 188 号 2008 年 7 月 10 日発行 (H20 - No.2) より